

将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025」の外部点検について

【総合評価】

○自己点検（病院事業管理者）

当院は、ビジョンとして「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命を守る診療を行う」と掲げており、その実現に向けて取組を進めています。

高度急性期・急性期医療を担う病院としての特徴的な成果としては、平成29年度上半期は、患者さんに対する看護の必要量を測る指標である「重症度、医療・看護必要度」が上昇しています。これは急性期病院として、重症患者に対する診療割合が増えていることを表します。また、地域医療連携を進めた結果として、紹介率や逆紹介率が目標を上回る数値となったほか、「通院不要的退院率」が向上したことで、十分な人員配置及び設備等を備え総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制を評価する「総合入院体制加算2」の算定を計画より早く開始することができました。このほか、平成29年4月には、神奈川県から救命救急センターの指定を受け、7月からは「救命救急入院料1」の算定を開始するなど、「断らない救急」を実践することで、救急患者の受入数は増加しており方針に沿った取組が進んでいると考えています。

一方で、救急車搬送患者のうち、入院患者の比率は、伸び悩んでいます。これは、平塚市において軽症の救急搬送患者が増加していることが原因と考えられますが、今後も三次救急体制を充実させるとともに重症患者を確保していく必要があります。また、医師不足により手術件数や全身麻酔件数も伸び悩んでいることから、対策が必要と考えています。

このように対策が必要な部分はあるものの、高度急性期・急性期病院を示す特徴的な指標については、成果が上がってきています。

また、市の施策も踏まえ、政策的医療である小児・周産期医療などを担っています。平塚・中郡地域では唯一産科・小児科の二次救急患者の受入れを行っており、「産科の救急受診患者受入数」は増加しています。小児科の救急受診患者についても、休日・夜間急患診療所や地域の医療機関との役割分担を図りつつ、受入れを行っており、市民の安心・安全に寄与していると考えています。

しかし、医業収支比率、経常収支比率などの財務状況を示す指標を見ると、経営は依然として厳しい状態にあると言わざるを得ません。この大きな要因としては、看護師不足により稼働できていない病床があることや呼吸器系や麻酔科の医師不足による手術件数の伸び悩みなどにより、入院収益が計画を下回っていることが考えられます。

今後も、経営状況を見ながら、医師・看護師不足の解消に向けた取組や情報発信によるPRなどにより患者さんを確保し、収益向上を目指すとともに、コスト意識の醸成と価格交渉の更なる強化により、経費削減を図るなど、職員一丸となって経営改善に取り組んでまいります。

(参考)

項目		H27	H28	H29	項目		H27	H28	H29	項目		H27	H28	H29
重症度、医療・看護必要度 ※H29目標値：26.5	上半期(%)	-	29.5	29.2	紹介率 ※H29目標値：68.0	上半期(%)	58.8	62.3	68.5	逆紹介率 ※H29目標値：85.0	上半期(%)	77.0	84.1	89.4
	年間(%)	18.5	29.4	-		年間(%)	58.5	62.3	-		年間(%)	78.3	86.6	-
通院不要的退院率 ※H29目標値：40	上半期(%)	24.1	26.1	43.5	救急搬送患者受入数 ※H29目標値：7,800	上半期(件)	3,367	3,813	3,933	救急車搬送患者入院患者数 ※H29目標値：2,500 ※()内は救急搬送患者受入数に対する率	上半期(件)	1,156(34.3)	1,159(30.4)	1,174(29.8)
	年間(%)	23.8	28.9	-		年間(件)	7,027	7,854	-		年間(件)	2,365(33.7)	2,420(30.8)	-
手術件数（中央手術室） ※H29目標値：3,800	上半期(件)	1,799	1,866	1,850	全身麻酔件数 ※H29目標値：2,550	上半期(件)	1,081	1,232	1,213	産科の救急受診患者受入数 ※H29目標値：290	上半期(件)	149	125	164
	年間(件)	3,562	3,696	-		年間(件)	2,162	2,484	-		年間(件)	280	277	-
小児科の救急受診患者受入数 ※H29目標値：2,080	上半期(件)	1,092	1,621	1,524	医業収支比率 ※H29目標値：83.3	上半期(%)	96.5	93.3	93.8	経常収支比率 ※H29目標値：92.7	上半期(%)	115.4	111.8	112.4
	年間(件)	2,020	3,181	-		年間(%)	92.1	86.3	-		年間(%)	99.8	93.9	-

○外部点検

○市長からの意見・指示

【平成32年（2020年）度の診療機能及び指標等】

○診療機能

内容	具体的施策	平成29年度上半期	
		評価・検証（病院長）	最終評価（病院事業管理者）
地域の中核病院としての高度医療・急性期医療を担います	「地域医療支援病院」として、高度医療・急性期医療の分野を担い、地域の医療機関と連携して、地域完結型医療の中で主要な役割を果たしていきます。	高度医療・急性期医療の実績は、救急搬送件数や診療単価の上昇に現れており、順調ですが、地域完結型医療の実現に向け、病院間連携の更なる充実が必要と思われます。	三次救急病院として断らない医療を実践しているだけでなく、総合入院体制加算の算定により急性期病院として恥ずかしくない体制となりました。地域完結型医療を目指し紹介率・逆紹介率ともに上がってきています。
救急医療体制を強化します	救命救急センターの指定を目指し、「断らない救急」を実践するとともに、救急搬送患者をより効率的に受け入れるよう体制を強化します。	救急搬送件数・救急応需率は十分な実績を出していますが、救急医の充実が課題となっています。	救命救急センターの指定を受け、断らない救急を実践して高い救急応需率を保っていますが、救急医不足が課題となっています。
がん医療の充実に努めます	（１）胃・大腸・肺・肝臓・乳がんの５大がんをはじめ、これまで力を入れてきた泌尿器科・婦人科領域のがんについても、高い診療レベルを維持します。 （２）手術、化学療法、放射線治療とそれらの集学的治療に加えて、緩和ケアにも力を入れます。	高精度放射線治療装置を導入し、集学的治療はレベルアップしました。がん診療戦略室の設置による更なる活性化が期待されます。	がん診療は当院の得意とする分野であり、緩和ケアも充実しています。集学的治療としては新規に導入した高精度放射線治療装置の有効活用を期待します。
地域の小児・周産期医療の中心を担います	（１）公立病院として、地域で求められる小児・周産期の高度医療、救急医療に対応できる診療体制の維持に努めます。 （２）妊娠・出産から、新生児・乳幼児・小児期を一貫した体制で診療します。	地域の小児・周産期救急医療を一手に引き受けており、お産件数も増加していますが、更なる集約化が必要です。	医師不足や不採算部門のために他院が小児・周産期医療を縮小していく中で、当院の果たす役割には大きなものがあります。更に充実させるためには医師の確保が必要です。
地域包括ケアシステムにおいて急性期の病院としての役割を担います	急性期の病院として、急性期病態への対応や、地域の医療機関等への教育指導、情報共有に努めます。	急性期病態への対応は、ほぼできています。地域のシステム作りにより積極的関与が必要です。	地域包括ケアシステムの中で急性期病院としての役割を果たし、システムの中で指導的立場にあります。
災害拠点病院としての機能を充実します	（１）自然災害に強い病院づくりを目指します。 （２）災害時に多発する重篤患者の受け入れや、災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣します。	病院のハードは、新館完成により充実しましたので、病院の運営力の充実が必要になってきます。	大災害に対応できる設備を持っています。災害時に対応できるよう訓練を行い、地域の訓練にも参加しています。

○指標等

項目	内容	平成32年（2020年）度目標値	平成29年度上半期		
			H29上半期実績	評価・検証（病院長）	最終評価（病院事業管理者）
外来	初診時保険外併用療養費	約4,000円（消費税抜）	H29/7/1から4,000円（税抜）に改定	医師不足の呼吸器内科での完全紹介制導入や初診時保険外併用療養費の改定はトラブルなく行うことができました。当院は、救急、紹介による入院中心の診療を行う方針のもと、取組を進めており、1日平均外来患者数も約800人に向けて徐々に近づいています。	初診時保険外併用療養費の改定はトラブルなく実行できました。また、入院中心の診療を行うため、逆紹介を増やし外来患者数の減少につながっています。
	受診体制	一部（紹介率又は診療単価が低い）の診療科は「完全紹介制」とする	H29/4/1から呼吸器内科を「完全紹介制」とした。		
	1日平均患者数	約800人	877.4人		
入院	診療単価	約70,000円	62,136円	「一般病棟医療看護必要度」は、医師を含め、必要度算定の理解が進み、目標をクリアしています。また、「総合入院体制加算」についても、通院不要的退院率に対する医師の理解と協力が進み条件の40%をクリアし、病院機能評価をパスしたことで、加算2の算定ができました。その他の特定入院料算定も実現しており、診療単価も初年度としては一定の水準になってきていますが、今後の更なる診療単価の上昇のためには手術件数の増加が不可欠です。	救命救急入院料と総合入院体制加算を算定できるようになり診療単価が上昇しましたが、70,000円を達成するためには医師不足を解消して手術件数を増やすなど更なる努力が必要です。
	一般病棟（特定入院料算定棟を除く）の医療看護必要度	約28%	29.2%		
	特定入院料の算定（施設基準）	（１）救命救急入院料	H29/7/1から算定開始		
		（２）ハイケアユニット入院医療管理料	ハイケアユニット入院医療管理料1		
（３）小児入院医療管理料		小児入院医療管理料3			
総合入院体制加算2の算定	平成29年（2017年）10月から算定開始	H29/8/1から算定開始			
その他	救急医療体制	二次救急輪番制と三次救急（救命救急センター運営による）	H29/4/1から二次救急輪番制と三次救急	救急については、三次救命救急センターの指定をいただき、順調に患者の受け入れを行っています。また、手術についても、現状の体制では精一杯対応している状況です。いずれも目標達成、更なるレベルアップのためには、医師、看護師等の人員の確保が必要です。	救急受け入れは順調ですが、救急医不足が課題です。職員数が現状のままでは手術件数増は困難で、麻酔科医や呼吸器外科医などの医師不足や看護師不足の解消が必要です。
	救急搬送件数	約8,200件	3,933件		
	手術件数	約4,400件	1,850件		
	全身麻酔件数	約3,000件	1,213件		
	紹介率	約80%	68.5%		
	逆紹介率	約100%	89.4%		

Ⅰ 医療の質と効率の視点

評価	-
----	---

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

「重症度、医療・看護必要度」「救急患者受入数」「通院不要的退院率」「紹介率・逆紹介率」については、概ね順調であり、職員一丸となって取り組んだ成果であると考えています。一方で、「手術件数」については伸び悩んでおりますが、医師不足等の様々な要因によるものと考えており、今後も医師確保等に努めてまいります。

(ア) 重症度、医療・看護必要度（一般病棟） 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門	平成29年度上半期					
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
重症度、医療・看護必要度（一般病棟）	目標値	26.5	27.0	27.5	28.0	7対1入院基本料の施設基準を満たす重症度、医療・看護必要度を維持します。	上半期平均は全体では29.2%でしたが、病棟間での差が見られ、特に内科系病棟では20%以下となっています。手術の有無は安定的に重症度、医療・看護必要度を維持するためには重要と考えています。重症度、医療・看護必要度の結果は、毎日前日分を確認し（週末分は月曜日確認）、毎朝の師長ミーティングで情報共有を図りながら25%以上の維持に努めています。また、重症度、医療・看護必要度に対する職員の意識も高くなっており、研修も計画的に参加させるなど、適正な評価に努めています。
	上半期実績	29.2					
	H28上半期	29.5	-	-	-		
	H28年間	29.4					

※重症度、医療・看護必要度（一般病棟）=（基準を満たす患者の延べ数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））/（入院患者延数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））*100

(イ) 救急患者受入数（産科及び小児科（周産期）を含む。） 単位：件

【関係部門】	診療部門、地域医療支援部門	平成29年度上半期					
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
救急搬送患者受入数	目標値	7,800	8,000	8,100	8,200	救命救急センターを目指し、地域ニーズに応える診療体制を提供します。	「断らない救急」を実践するため、救急医療体制を強化し、平成29年4月に救命救急センターの指定を受けました。平成29年度は、近隣消防関係者を対象とした救命救急センター、ヘリポートの紹介を行うなど、消防隊との連携強化を図っています。結果として、平成29年度上半期の救急搬送患者受入数は、前年度上半期比で120件の増加となり、平成29年度は目標を上回る成果が期待できます。一方で、救急搬送された患者のうち、入院となった患者は、前年度上半期と比べると15件増加したものの、入院率では0.6ポイント減少しており、目標達成が厳しい状況となっています。特に軽症の搬送患者が多くなっていることが要因と考えられ、重症患者確保が課題です。今後、救急隊との連携を更に密にするとともに、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、重症患者確保を目指します。
	上半期実績	3,933					
	H28上半期	3,813	-	-	-		
	H28年間	7,854					
救急車搬送患者入院患者数	目標値	2,500	2,650	2,750	2,850		
	上半期実績	1,174					
	H28上半期	1,159	-	-	-		
	H28年間	2,420					

(ウ) 通院不要的退院率（総合入院体制加算の施設基準による） 単位：%

【関係部門】	診療部門	平成29年度上半期					
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
通院不要的退院率	目標値	40	40	40	40	地域医療支援病院として、地域医療連携を強化し、総合入院体制加算の施設基準を維持します。	通院不要的退院率は、地域の他の医療機関との連携を図る指標の1つであり、総合入院体制加算2では40%以上であることが求められています。当院では、診療情報提供書の作成を積極的に進め、40%以上の基準を満たすことで、平成29年8月から総合入院体制加算2の加算を開始しました。今年度は、毎月40%を超えており、目標を達成できると考えていますが、今後も、地域医療連携を積極的に推進します。
	上半期実績	43.5					
	H28上半期	26.1	-	-	-		
	H28年間	28.9					

※通院不要的退院率= {（退院時診療情報提供書作成患者の数）+（転帰が治癒の退院患者（当該又は他の医療機関で外来受診の不要な患者）の数）} / 退院患者数（外来化学療法・化学療法専門外来・HIV等に係る専門外来・死亡を除く）*100

(エ) 手術件数 単位：件

【関係部門】	診療部門	平成29年度上半期					
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
手術件数（中央手術室）	目標値	3,800	4,000	4,200	4,400	重症患者の診療を中心に行う病院として、手術室の有効利用を図り、手術件数の増加に努めます。	当院は、高度急性期及び急性期病院として、「手術」「難しい検査や処置」などの高質で高度な医療を担っていくこととしており、手術件数の増加は不可欠です。このような中で、前年度上半期と比べ手術件数は16件、全身麻酔件数は19件それぞれ減少しており、現状のままでは目標達成が厳しい状況となっています。全身麻酔の件数が減ることから特に重症患者向けの手術が減少していると考えられ、今後、医師の確保等による診療領域の拡大、患者さんや市民への情報発信により、「選ばれる病院」となることで、目標達成を目指します。診療科別では、前年度上半期と比べ呼吸器外科（手術件数48件減、全身麻酔件数47件減）、耳鼻咽喉科（22件減、26件減）などで減少が見られた一方で、脳神経科（41件増、36件増）などでは増加も見られました。
	上半期実績	1,850					
	H28上半期	1,866	-	-	-		
	H28年間	3,696					
全身麻酔件数	目標値	2,550	2,700	2,850	3,000		
	上半期実績	1,213					
	H28上半期	1,232	-	-	-		
	H28年間	2,484					

(オ) 紹介率・逆紹介率 単位：%

【関係部門】	診療部門、地域医療支援部門	平成29年度上半期					
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
紹介率	目標値	68.0	72.0	76.0	80.0	地域医療支援病院として、紹介及び逆紹介を積極的に行います。	紹介率、逆紹介率ともに、目標値に達したことに加え、昨年度実績も上回っており、上昇傾向となっています。これらは、医師に逆紹介の流れが定着してきたこととともに、開業医訪問やクロスミーティング（開業医との連携の会）の開催、クロスピッチ（開業医とのホットライン）導入の効果のあらわれであろうかと思われま。
	上半期実績	68.5					
	H28上半期	62.3	-	-	-		
	H28年間	62.3					
逆紹介率	目標値	85.0	90.0	95.0	100.0		
	上半期実績	89.4					
	H28上半期	84.1	-	-	-		
	H28年間	86.6					

※紹介率=紹介患者の数(初診に限る) / {(初診患者の数(初診料算定患者))- (救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} *100

※逆紹介率=逆紹介患者の数(診療情報提供料算定患者数) / {(初診患者の数(初診料算定患者))- (救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} *100

II 患者満足の視点

評価	-
----	---

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

患者さんに対する情報発信については、患者満足の向上のほか、当院をPRし、認知度を上げていくためにも必要です。患者さんに限らず市民・社会に対する情報発信を戦略的に進めるとともに、職員一人一人が広報マンであるとの意識のもと、院内での情報共有の徹底と各職員の積極的な情報収集により、引き続き情報発信に努めます。

(ア) 産科・小児科（周産期）の救急受診患者受入数

単位：件

【関係部門】		診療部門					平成29年度上半期	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
産科	目標値	290	300	305	315	子どもを産み育てやすい環境づくりを積極的に進めていきます。	平塚・中郡地域における産科、小児科の二次救急当番は当院のみで担っています。平成29年度上半期の救急受診患者数については、産科が前年度上半期比39件増、小児科は97件減となっていますが、いずれも目標を上回る成果が見込まれます。小児科は、一次救急を担う休日・夜間急患診療所の利用が増えており、今後も休日・夜間救急診療所や地域の医療機関と適切な役割分担を図りつつ、市民の安心・安全に寄与してまいります。	
	上半期実績	164						
	H28上半期	125	-	-	-			
	H28年間	277						
小児科	目標値	2,080	2,140	2,200	2,270	二次医療圏内で唯一産科入院ができる病院として、多様な出産に対応可能な体制を整備します。	分娩件数は昨年度よりも増加しており、目標達成が見込まれます。要因としては新館効果、広報（広報ひらつか・スマイル等）の効果もあったものと推察します。また、患者満足の視点から、助産師外来および母乳外来による指導の充実を図ったことで、第2子も当院で出産したいという希望もありました。	
	上半期実績	1,524						
	H28上半期	1,621	-	-	-			
	H28年間	3,181						

(イ) 分娩件数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成29年度上半期	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
分娩件数	目標値	490	520	550	580	二次医療圏内で唯一産科入院ができる病院として、多様な出産に対応可能な体制を整備します。	分娩件数は昨年度よりも増加しており、目標達成が見込まれます。要因としては新館効果、広報（広報ひらつか・スマイル等）の効果もあったものと推察します。また、患者満足の視点から、助産師外来および母乳外来による指導の充実を図ったことで、第2子も当院で出産したいという希望もありました。	
	上半期実績	256						
	H28上半期	222	-	-	-			
	H28年間	453						

(ウ) 情報発信件数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
市民向け出張講座開催数	目標値	11	12	13	15	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。現在は、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいる状況であり、対象者の偏りがあるほか、実施回数も目標達成できていないものもあります。今後は、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	上半期実績	13						
	H28上半期	10	-	-	-			
	H28年間	13						
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。現在は、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいる状況であり、対象者の偏りがあるほか、実施回数も目標達成できていないものもあります。今後は、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	上半期実績	13						
	H28実績	-	-	-	-			
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。現在は、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいる状況であり、対象者の偏りがあるほか、実施回数も目標達成できていないものもあります。今後は、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	上半期実績	8						
	H28実績	-	-	-	-			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。現在は、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいる状況であり、対象者の偏りがあるほか、実施回数も目標達成できていないものもあります。今後は、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	上半期実績	56						
	H28実績	-	-	-	-			
ホームページアクセス数（月平均）	目標値	19,000	20,000	22,000	23,000	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。現在は、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいる状況であり、対象者の偏りがあるほか、実施回数も目標達成できていないものもあります。今後は、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	上半期実績	19,646						
	H28実績	19,200	-	-	-			
病院広報誌「Smile!」配布数	目標値	8,000	116,500	6,000	5,000	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善することで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。現在は、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいる状況であり、対象者の偏りがあるほか、実施回数も目標達成できていないものもあります。今後は、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	上半期実績	2,000						
	H28上半期	2,000	-	-	-			
	H28年間	8,000						

III 経営・財務の視点

(ア) 経営改善に係るもの

評価	-
----	---

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

昨年度と比べると改善が見られ、目標は達成することができる見込みですが、収入確保、経費削減ともに改善の余地があり、より高いレベルを目指します。

a 医業収支比率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
医業収支比率	目標値	83.3	89.4	90.6	92.7	健全経営を実施するため、医業収支比率の向上に努めます。 医業収支比率の改善には、医業収益の増加、医業費用の削減又は増加の抑制が必要です。平成29年度上半期は、前年度上半期と比べ医業収益、医業費用ともに増加しています。しかし、入院収益については、7月の救命救急入院料1や8月の総合入院体制加算2の算定開始などの増加要因があるものの、看護師不足により、稼働できない病床があることなどから伸び悩んでいます。昨年度の傾向を見ると、下半期は上半期と比べ医業費用が多くなる傾向にあり、通年での医業収支比率は、上半期単独と比べ悪化するものの、昨年度と同程度と見込まれ、目標は達成できると考えられますが、病院経営は依然として厳しい状態にあります。今後も医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の稼働により収益を確保するとともに、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげるほか、価格交渉による材料費の抑制等を進め、目標達成を目指します。
	上半期実績	93.8				
	H28上半期	93.3	-	-	-	
	H28年間	86.3				

※医業収支比率=（医業収益）/（医業費用）*100

b 経常収支比率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
経常収支比率	目標値	92.7	95.8	96.5	98.0	健全経営を実施するため、経常収支比率100%以上を目指します。 経常収支比率の改善には、収益の増加、費用の削減又は増加の抑制が必要です。平成29年度上半期は、前年度上半期と比べ医業外費用を除き増加しています。しかし、入院収益については、7月の救命救急入院料1や8月の総合入院体制加算2の算定開始などの増加要因があるものの、看護師不足により、稼働できない病床があることなどから伸び悩んでいます。昨年度の傾向を見ると、下半期は上半期と比べ医業費用が多くなる傾向にあり、通年での経常収支比率は、上半期単独と比べ悪化するものの、昨年度と同程度と見込まれ、目標は達成できると考えられますが、病院経営は依然として厳しい状態にあります。今後も医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の稼働により収益を確保するとともに、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげるほか、交渉による材料費の抑制等を進め、目標達成を目指します。
	上半期実績	112.4				
	H28上半期	111.8	-	-	-	
	H28年間	93.9				

※経常収支比率= {（医業収益）+（医業外収益）} / {（医業費用）+（医業外費用）} *100

c 現金預金残高

単位：百万円

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
現年度現金預金額	目標値	427	387	△182	147	健全経営を実施し、現金預金が不足しないよう努めます。 平成29年度9月末時点の現金預金額は、前年度同時期と比べ、2億円以上の増加となっています。しかし、これは企業債の償還に当たり、9月に市から一時借入を行ったことによるものであり、厳しい状況が続くものと考えられます。今後も引き続き収益確保、経費削減により、健全経営に努めるとともに、常に資金状況を見据え、資金不足が生じないような的確な運営に努めます。
	上半期実績	225				
	H28上半期	67	-	-	-	
	H28年間	81				
累計現金預金額	目標値	723	1,110	928	1,075	
	上半期実績	1,048※				
	H28.9末	810	-	-	-	
	H29.3末	824				

※平成29年9月30日時点

(イ) 経費削減に係るもの

評価	-
----	---

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

医業収益の状況等により、比率には表れていませんが、薬品費、診療材料費は抑制が進んでいます。薬品費、診療材料費の抑制に向けた取組を進める中で、院内組織の活性化や薬剤部の努力などが見られました。結果として職員のコスト意識が向上し、次年度以降につながる好材料と考えています。引き続き、経費削減に努めるとともに、収益の確保を進めることで、比率の向上に努めます。

a 薬品費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
薬品費対医業収益比率	目標値	10.8	11.5	11.5	11.5	医業収益の増加と薬品購入費の抑制に努めます。	薬品の価格交渉を強力に進めたことにより、薬品費は、前年度上半期比で2,700万円ほど抑制できましたが、薬品費対医業収益比率で見ると目標は達成できていません。今後も引き続き薬品の価格交渉を進めるとともに、医業収益の増加により、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2						
	H28上半期	11.9	-	-	-			
	H28年間	10.3						

※薬品費対医業収益比率=（薬品費）/（医業収益）*100

b 診療材料費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
診療材料費対医業収益比率	目標値	10.8	12.4	12.4	12.4	医業収益の増加と診療材料費の抑制に努めます。	平成29年度上半期の診療材料費は、価格交渉や安価品への切り替えなどにより、前年度上半期と比べ1,800万円ほど抑制できましたが、診療材料費対医業収益比率で見ると目標は達成できていません。今後も引き続き診療材料費の価格交渉を進めるとともに、医業収益の増加により、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2						
	H28上半期	11.8	-	-	-			
	H28年間	10.6						

※診療材料費対医業収益比率=（診療材料費）/（医業収益）*100

c 職員給与費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
職員給与費対医業収益比率	目標値	64.5	57.9	57.4	55.4	医業収益の増加と給与費の抑制に努め、比率を下げます。	平成29年度上半期は、前年度上半期と比べ医業収益が増加しているものの、給与費はそれ以上の増加率となっています。昨年度の傾向を見ると、下半期は上半期と比べ給与費が多くなる傾向にあり、通年での職員給与費対医業収益比率は、昨年度と同程度又は悪化し、目標達成が厳しい状況にあるものと考えられます。職員給与費等の固定費は、大幅に削減することが難しい性質を有している上に、常勤の医師や看護師が足りない分を非常勤で対応するなどして運用していますが、病院経営が依然として厳しい状態にある中では、抜本的な対策が必要です。今後も常勤医師の確保等による診療領域の拡大や常勤看護師の確保を進め、病床を効率よく稼働することで、収益を確保するとともに、業務の見直し等による時間外勤務手当等の抑制や非常勤医師の勤務体制の見直し等を進めることなどにより、目標達成を目指します。	
	上半期実績	54.8						
	H28上半期	54.3	-	-	-			
	H28年間	65.8						

※職員給与費対医業収益比率=（給与費）/（医業収益）*100

d 後発医薬品の使用割合（使用量ベースによる割合） 単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
後発医薬品の使用割合	目標値	84	85	86	87	可能な限り後発医薬品への切替えを行い、薬品購入費の抑制と後発医薬品係数の増加に努めます。	継続的で絶え間ない取組により、後発医薬品への切替が進んでおり、目標値を上回る実績となっています。今後も引き続き取組を進めてまいります。	
	上半期実績	90.8						
	H28上半期	83.3	-	-	-			
	H28年間	85.5						

※後発医薬品の使用割合=（後発医薬品）/ {（後発医薬品のある先発医薬品）+（後発医薬品）} *100

(ウ) 収入確保に係るもの

評価

-

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

収入確保に向けた喫緊の課題は、入院患者の増加です。救急搬送患者の増加などの増加要因はあるものの、全体としては、昨年度上半期と比べ減少しているのが現状です。当院は、平成30年度には整備事業が完了し、グランドオープンするため、療養環境が大きく改善します。医師・看護師等の確保など難しい問題もありますが、入院患者確保に向けた取組を強化します。

また、外来患者については、救急、紹介による入院中心の診療を行うため、逆紹介を推進し、患者数の抑制を進めていますが、紹介患者の更なる確保等に積極的に取り組みます。

a 1日当たり平均入院患者数

単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	351	351	350	370	入院ベッドの有効利用に努め、病床利用率の向上を図ります。	1日当たり平均入院患者数は、平成28年度上半期と比べ減少しています。この大きな要因としては、看護師の不足により稼働できない病床があることなどが考えられます。 今後、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による稼働病床の確保のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげ目標の達成を目指します。 診療科別では、特に呼吸器内科、外科などで医師数の減少があったことから前年度上半期と比べ減少が見られました。	
	上半期実績	325.9						
	H28上半期	357.2						
	H28年間	353.4	-	-	-			

b 1日当たり平均外来患者数

単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	915	887	852	824	高度急性期及び急性期を担い入院中心の診療を行うため、逆紹介を推進し、外来患者数の抑制を行います。	高度急性期及び急性期病院として、外来患者については、救急・紹介の患者を中心に診療し、急性期の治療を終えた患者さんについては、病状に適した医療機関に紹介することを徹底しています。平成29年度上半期の実績では、精神科、形成外科、産婦人科など一部の診療科を除き、逆紹介の推進等により、前年度上半期と比べ1日当たり外来患者数は減少しており、約半数の診療科で目標値を達成する数字となっています。今後も地域医療連携を進めることで、目標達成を目指します。	
	上半期実績	877.4						
	H28上半期	925.8						
	H28年間	924.3	-	-	-			

c 入院診療単価

単位：円

【関係部門】		診療部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	63,100	67,050	68,750	69,690	高度な医療を担う病院として、診療密度の高い診療を行うことで単価の上昇を図ります。	平成29年7月の救命救急入院料1や平成29年8月の総合入院体制加算2の算定開始などの効果もあり、平成29年度上半期は、前年度上半期と比べ入院診療単価は増加しており、診療科別で見ても耳鼻咽喉科などの一部の診療科を除き、入院診療単価は増加しています。 今後、医師の確保等による診療領域の拡大、地域医療連携推進のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、重症患者を確保し、目標達成を目指します。	
	上半期実績	62,136						
	H28上半期	55,693						
	H28年間	56,879	-	-	-			

d 外来診療単価

単位：円

【関係部門】		診療部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	12,130	12,460	12,840	13,250	救急と紹介を中心とした外来診療を行い、病状が安定した患者さんは逆紹介を行います。	外来診療単価については、前年度上半期と比べ、増加しています。これは、逆紹介の推進等による外来患者数の減少等に伴い、機能分化が進んだことが要因と考えられます。しかし、約半分強の診療科で目標値を達成しておらず、その多くは、1日平均外来患者数についても目標値を達成できていない診療科です。これらの診療科を中心に、今後も、地域医療連携を推進することで、開業医との役割分担による外来患者の絞り込みを図り、目標達成を目指します。	
	上半期実績	12,162						
	H28上半期	11,349						
	H28年間	11,969	-	-	-			

e 医師及び看護師1人当たり入院診療収入

単位：千円

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	86,040	89,520	90,160	94,100	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	平成29年7月の救命救急入院料1や平成29年8月の総合入院体制加算2の算定開始などの入院収益の増加要因があるものの、看護師不足により、稼働できない病床があることなどから入院収益が伸び悩んでおり、結果として目標達成が厳しい状況となっています。 今後、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による稼働病床の確保のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげ、目標の達成を目指します。	
	上半期実績	40,959						
	H28上半期	39,774						
	H28年間	80,169	-	-	-			
看護師	目標値	22,470	23,230	23,250	24,130	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	平成29年7月の救命救急入院料1や平成29年8月の総合入院体制加算2の算定開始などの入院収益の増加要因があるものの、看護師不足により、稼働できない病床があることなどから入院収益が伸び悩んでおり、結果として目標達成が厳しい状況となっています。 今後、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による稼働病床の確保のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげ、目標の達成を目指します。	
	上半期実績	9,920						
	H28上半期	10,363						
	H28年間	21,094	-	-	-			

f 医師及び看護師1人当たり外来診療収入

単位：千円

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成29年度上半期
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
医師	目標値	28,940	28,100	27,340	26,630	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	高度急性期及び急性期病院として、外来患者については、救急・紹介の患者を中心に診療することとしています。今後も、地域医療連携を推進することで、開業医との役割分担による外来患者の絞り込みを図り、高度急性期及び急性期病院として求められる機能を強化します。
	上半期実績	14,622					
	H28上半期	14,132					
	H28年間	29,500	—	—	—		
看護師	目標値	7,560	7,290	7,050	6,830		
	上半期実績	3,543					
	H28上半期	3,680					
	H28年間	7,670	—	—	—		

g 病床利用率

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成29年度上半期
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
全体計	目標値	85.6	90.0	90.0	90.2	入院ベッドの有効利用に努め、病床利用率の向上を図ります。	病床利用率は、ICU/CCU、NICU、GCU、産科病床で目標値を下回っています。これらの病床は緊急患者への対応のためにある程度余裕のある運用が必要ですが、医師の確保等による診療領域の拡大のほか、患者さんや市民への情報発信により、信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者さんの確保につなげていく必要があります。 また、看護師の確保を進め、稼働病床の確保を目指します。
	上半期実績	91.5					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	79.5	—	—	—		
	参考2	83.9	—	—	—		
一般病床	目標値	88.3	94.0	94.0	94.0	—	
	上半期実績	96.7					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	80.9	—	—	—		
産科病床	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	—	
	上半期実績	86.3					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	86.3	—	—	—		
小児科病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—	
	上半期実績	76.3					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	76.3	—	—	—		
ICU/CCU (集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—	
	上半期実績	65.7					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	65.7	—	—	—		
NICU (新生児特定 集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—	
	上半期実績	51.2					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	51.2	—	—	—		
GCU (継続保育治療 室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—	
	上半期実績	54.7					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	54.7	—	—	—		
救急病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—	
	上半期実績	73.7					
	H28実績	—	—	—	—		
	参考1	73.7	—	—	—		

※病床利用率は、(入院延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数) で算出していますが、参考1「(入院延患者数) / (許可病床ベースでの延病床数)」、参考2「(退院患者を除外した延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数)」を記載しています。

h 平均在院日数

単位：日

【関係部門】		診療部門、看護部門、地域医療支援部門					平成29年度上半期
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
平均在院日数	目標値	10.1	9.9	9.7	9.5	高度急性期及び急性期を担う病院として、地域医療連携を推進し、病状が安定した患者さんは後方連携を積極的に行い、在院日数の短縮を図ります。	平均在院日数は、10日前後で推移しており、概ね目標を達成する状況であると考えています。 今後も効率的な治療、計画的な退院支援、地域医療連携に取り組み、高度急性期及び急性期病院として、急性期治療を終えた患者さんについては、病状に適した医療機関への紹介を徹底することで、平均在院日数の短縮に努めます。
	上半期実績	10.0					
	H28上半期	10.3	—	—	—		
	H28年間	10.5	—	—	—		

(エ) 経営の安定化に係るもの

評価

-

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

当院は、地域や立地などの点から、医療スタッフ確保は非常に難しい面がありますが、当院の魅力や強みを積極的にPRするほか、丁寧なフォローをすることで、医療スタッフを確実に確保し、診療領域の拡大などにより、経営安定化を目指します。

a 医師数 単位：人

【関係部門】	診療部門、事務部門	平成29年度上半期				
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
常勤医師数	目標値	94	96	98	100	医療の質の向上と医業収益を確保するため、必要な医師数を確保します。 安定的かつ効率的に医療を提供し、収益を上げるためには、常勤医の確保が必要ですが、今年度は目標に達していません。医師の確保のための活動により、医師数が少ない診療科、欠員が生じている診療科を中心に診療体制の充実を図るとともに、診療領域の拡大を目指します。
	実績	91※ (90)				
	H28.10.1	91	-	-	-	
	H29.3.1	92	-	-	-	

※平成29年4月1日時点。（）内は、休職者等を除く定数上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

b 看護師数 単位：人

【関係部門】	看護部門、事務部門	平成29年度上半期				
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
常勤看護師数	目標値	360	370	380	390	4月1日付採用46人（新卒27・既卒19）、5月～9月までの既卒採用者6名で、上半期の採用は52名でした。上半期の資料請求は85件（ホームページや企業のサイトから）、企業主催の合同説明会42名、病院見学56名で、特に病院見学は前年度よりも増加しています。非常勤の看護師確保担当の採用（1月）により、個々の希望に応じた丁寧な対応や見学後のメール等でのフォローの効果が好印象に繋がっていると考えます。また、新人教育システムの充実により、集合研修のみならず個を大切にした関わりが学生間でも情報共有されていることも大きいと考えています。
	実績	378※ (362)				
	H28.10.1	348	-	-	-	
	H29.3.1	339	-	-	-	

※平成29年4月1日時点。（）内は、休職者等を除く定数上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

IV 職員の学習と成長の視点

評価

-

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

職員の教育、育成は当院の基本方針にも位置付ける重要な要素です。下半期も教育の場の確保や職員が教育を受けることができる環境を整え、引き続き職員の能力向上を図り、質の高い医療の提供につなげます。

(ア) 職員向け院内研修会の1人当たりの参加数 単位：回

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	平成29年度上半期				
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	目標値	5	5	6	6	病院の質を向上させ、全職員一体となって経営に参画する意識を持つよう、参加者数の増加に努めます。 上半期実績値は、年間目標の約半分の値であり、下半期も同様の出席状況が得られるよう努力します。
	上半期実績	2.6				
	H28実績	-	-	-	-	

(イ) 有資格者数 単位：人

【関係部門】	診療部門、看護部門	平成29年度上半期				
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
基本領域専門医数	目標値	53	54	55	56	高度急性期及び急性期を担う病院として、医療の質を向上させるため、質の高い医療職を確保します。 今年度も新たに認定を取得する職員がおり、職員の能力向上が図られています。今後も引き続き職員がスキルアップできる環境を確保し、やる気のある医療職の下、質の高い医療の提供につなげていきたいと考えております。
	実績	55※				
	H29.3末	58	-	-	-	
認定看護師数	目標値	17	19	21	23	
	実績	14※				
	H29.3末	13	-	-	-	

※H29/10/1時点。正規職員の人数

V 社会貢献の視点

評価	-
----	---

平成29年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

公立病院として、引き続き様々なフィールドで社会に貢献しており、今後も目標値に拘らず地域や社会のニーズを踏まえ、積極的に取り組んでまいります。

(ア) 社会貢献活動の実施数

単位：件・人

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
救急ワークステーションでの 医師出動件数	目標値	150	150	150	150	公立病院として、社会貢献活動に取り組めます。	<p>当院は災害拠点病院であり、また、救命救急センターの指定を受け、救急医療を担っていることから、社会に還元する活動を指標に設定しています。</p> <p>自動参集訓練の実施、地元の南原地区の防災訓練への参加、実習の受入れなどにより、災害時における病院の機能維持、救急隊の知識・技術の向上などに資する取組を行い、今年度は、目標達成が見込めます。</p> <p>今後もイザというときの備えとノウハウの提供により、公立病院として、災害拠点病院としての役割を果たしてまいります。</p>	
	上半期実績	63						
	H28上半期	-	-	-	-			
災害医療関係行事数	目標値	10	10	10	10			
	上半期実績	6						
	H28上半期	6	-	-	-			
救急救命士病院実習 受入人数	H28年間	11	-	-	-			
	目標値	55	55	55	55			
	上半期実績	27						
	H28上半期	27	-	-	-			
	H28年間	52	-	-	-			

(イ) 学会及び論文研究発表件数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
診療部門	目標値	170	175	180	185	研究に積極的に取り組む医療機関として発表を行い、研究成果を広く社会に還元します。	<p>学会等において、研究成果を発表することは、社会貢献や職員の能力向上のほか、病院の知名度向上にもつながります。</p> <p>今後も様々な症例に対応し、それらの成果を社会に還元することで、社会全体の医療の質の向上に寄与したいと考えています。</p>	
	上半期実績	92						
	H28実績	178	-	-	-			
看護部門	目標値	5	5	6	6			
	上半期実績	1						
	H28実績	8	-	-	-			
その他	目標値	30	32	34	36			
	上半期実績	13						
	H28実績	22	-	-	-			

(ウ) 学生実習受入人数

単位：人

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	17	18	19	20	新たな医療職を育てる教育施設として、積極的に受け入れを行います。	社会貢献の観点から、各部署とも人材育成や学生教育に協力し、積極的に学生を受け入れており、平成29年度上半期実績は、順調に推移しています。	
	上半期実績	9						
	H28上半期	—	—	—	—			
	H28年間	—	—	—	—			
看護師・助産師	目標値	520	520	520	520			
	上半期実績	249						
	H28上半期	214	—	—	—			
	H28年間	438	—	—	—			
薬剤師	目標値	1	4	4	4			
	上半期実績	1						
	H28実績	2	—	—	—			
リハビリテーション 技師	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	4						
	H28上半期	4	—	—	—			
	H28年間	7	—	—	—			
放射線技師	目標値	1	1	2	2			
	上半期実績	2						
	H28上半期	0	—	—	—			
	H28年間	0	—	—	—			
臨床工学技士	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	9						
	H28上半期	7	—	—	—			
	H28年間	7	—	—	—			
臨床検査技師	目標値	2	2	2	2			
	上半期実績	3						
	H28上半期	2	—	—	—			
	H28年間	2	—	—	—			
管理栄養士	目標値	8	10	10	10			
	上半期実績	2						
	H28上半期	2	—	—	—			
	H28年間	6	—	—	—			

(エ) 講座及び講演数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成29年度上半期	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
市民向け出張講座開催数	目標値	11	12	13	15	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、要望を吸い上げ、改善につなげることで、信頼を得て「選ばれる病院」につなげることができると期待しています。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。現在は、公民館向けの出前講座（市民向け出張講座）以外は、各部署が独自に取り組んでいる状況であり、対象者の偏りがあるほか、実施回数も目標達成できていないものもあります。今後は、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていくことが重要であると考えています。	
	上半期実績	13						
	H28上半期	10	—	—	—			
	H28年間	13	—	—	—			
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60			
	上半期実績	13						
	H28実績		—	—	—			
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20			
	上半期実績	8						
	H28実績		—	—	—			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45			
	上半期実績	56						
	H28実績		—	—	—			